

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼稜子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

大内要三さんの「日本の安全保障政策を考える」連続講座がスタート
第1回は「朝鮮戦争が終わると、日本は平和になりますか？」
9月30日(日) 午後2時～ 区役所本庁舎19階 1902会議室で 資料代：300円

東京新聞8月31日付夕刊は「防衛費5兆2986億円要求 過去最大更新5年連続」と、日本の軍事費増強の動きを報じています。その解説では「巨費に見合う効果あるのか」との見出し。このまま推移すれば、消費税の10%化は殆どが軍事費増強に回されかねません。米朝会談の実現など緊張緩和が進もうとしている中で、軍事費は米国の押し付け

そのままに増えるばかり。

こうした動きはなぜ起きるのか、憲法に自衛隊を明記するという安倍改憲の動きが強化されようとしている中で、我々はどうか考え、どうすればよいのか？大内さんには3回連続の講義で「日本の安全保障政策」についてお話いただきます。

(田場・記)

「ねりま沖縄映画祭2018」9月22日～10月12日に開催
13本の作品を武蔵大、日大、区内公共施設で上映
作品の鑑賞で沖縄の真実を知り、知事選の支援を！

3回目を迎える「ねりま沖縄映画祭2018」が9月22日から10月12日まで、武蔵大、日大や区内の公共施設を会場に行われます。上映作品数は13本、すべてあらかじめ実行委員会が事前に試写をして選りすぐった作品ばかりです。

同封したチラシを熟読していただければお分かりになるように、沖縄の基地問題、自然・環境、民俗性などが網羅されている作品群です。すでに話題となっている「米軍が最も恐れた男—その名

はカメジロー」はTBS所有のニュース映像などを駆使して制作された作品で、アメリカ占領がいかにも過酷で、瀬長亀次郎を中心とした闘いの厳しさが描かれています。

時あたかも9月30日(9月13日告示)に、辺野古新基地を最大の争点とした沖縄知事選が闘われようとしています。急逝した翁長知事を弔い、「オール沖縄」陣営をはげます意味でも、今回の「沖縄映画祭」の作品を是非ご覧ください。

チケットのお問い合わせは共同代表・幹事までご連絡を！

文化の会では、下記の20人の幹事・共同代表の皆さまに、3回券1セット、単発チケット5枚を「会だより」に同封し、お預けいたしました。お知り合いの方がいましたら、連絡をお取りください。また会員20名の方に単発チケット3枚を同封しています。会としては、下記3名のものがチケットを預かっていますので、こちらに連絡頂いても結構です。当たり前のことですが、本土のヤマトンチュウは、沖縄のウチナンチュウに比べ、沖縄の歴史・現状にいかにも無理解かがいやというほど思い知らされます。「沖縄映画祭」を機に、沖縄の真実に

迫っていただければ、と思います。(田場・記)

○文化の会の共同代表・幹事：有原誠治、大内要三、小沼稜子、小岩昌子、吉田巳蔵、田場洋和、森田彦一、轡田英夫、浅原修一、大平真紀、小田原美保、片山むぎほ、勝山繁、立川君子、田場祥子、寺崎進、中田英明、中村茂樹、荷口鉄雄、眞嶋康雄、宮下智行、麗梨

○チケット等の問い合わせ先

・森田彦一：3951-4276

・轡田英夫 3948-5129

・田場洋和：3991-9165

望月衣塑子 講演会・10月7日に文化センター小ホールで開く
猿田弁護士と永田武蔵大教授の3人でパネル討論も

権力の中核に迫る東京新聞の記者・望月衣塑子さんの練馬での講演会が、10月7日(日)午後6時15分開場、午後6時45分開演で練馬文化センター小ホールで開かれます。資料代は500円。

講演会は実行委員会主催で、練馬の多くの団体、個人が参加している。呼びかけ人は、永田浩三、柏木美恵子、菊地紘、佐藤康尚、鳴海加代子、山本由美さん。

望月さんのお話の後、第2部として国際弁護士の猿田佐世さん。コーディネーターとして永田浩三の3人で「市民目線で民主主義を問う」のテーマでパネルディスカッションを行います。

練馬生まれ、練馬在住、練馬在勤の3人が、縦横無尽に今の世代を斬り、現在の焦眉の問題に斬り込みます。

(森田・記)

原発なくそう「練馬でもデモ」9月17日10時半からつつじ公園で

福島原発事故から7年半。フクシマは全く解決されていません。むしろ原子力発電所の再稼働、原発の輸出を進めております。9月17日は、10時半に練馬駅前「平成つつじ公園」に集合し、10時45分に練馬駅周辺のデモを行います。

皆さんは、脱原発のシンボル・黄色いグッズを身につけ、頑張って歩きましょう。

デモ終了後は、代々木公園で開かれる「いのちをつなぎ 暮らしを守れ フクシマと共に9・17さようなら原発全国集会」に参加しましょう。

集会は、12時半に開会、落合恵子さん、鎌田慧さん、吉原毅さん、福山真さんなどが発言。午後3時10分にデモ出発します。

(森田・記)

8月25日の第6回経済講座『金利と国債の話』に26人参加 第7回は11月10日午後6時～「簿記の基本と税制の問題点」がテーマ

(1) 公開講座報告・質疑応答

8月25日(土)に開催(会場「練馬ココネリ、26人参加)。20年以上続く超低金利政策は家計部門に莫大な預貯金利子の「逸失利益=損失」、435兆円をもたらした。定期預金金利6%の時代は複利元利合計6年で2倍。今は0.01%で2倍に7200年。超低金利の被害は家計・個人を直撃、損失・犠牲が続く。毎年、財務省は新規国債と「借換債」を発行、超低金利で買い手がつかない80兆円を日銀が買入れる異常な政策。6年間で発行残高約200兆円増加、日銀の買入残高は国債全体の4割、約500兆円に達するが、「財政再建」と称し消費税10%増税が待ち受ける。異常な政策が継続する理由は経済の基本である税収が伸びず、税収不足を国債発行で補い、その為悪化する財政を金融で補完するという悪循環に陥いるが、悪循環は不公正で不合理な税制の歪みから生じる。

○出席者とは次の質疑応答がされた。

「①財政破綻とは？」⇒国家は毎年一定の税収があり、債務超過でも「破産」しないが、対GDP比230%超、世界一の債務は事実上の破綻状態、債務返済は極めて困難。

「②国債は国内で消化？」⇒発行国債の4割を日銀が保有、海外の保有は1割、国内で9割保有。その意味では「国内消化」だが、金融政策を担う中央銀行が財政赤字の手助けに国債を大量購入する異常な状態。

「③ハイパーインフレは？」⇒物不足など混乱した戦後と違い起こりにくく、日銀の国債購入は金融機関との当座預金の振替で決済、新たに銀行券は発行せず。

「④各種の税の意味？」⇒収納済額は国税庁が徴収し財務省に納めた額、歳入組入額は収納済額から還付金を差し引き、歳入=予算に組み入れた額、各税還付金は消費税や法人税還付金など。2015年度は、73.4-57.2=15.1兆円。

「⑤貸借対照表(BS)の意義？」⇒BSは一般家庭から企業の経営実態、自治体から国や日銀までの財政状況、経営状況が一目で理解できる優れたツール。

(2) 第7回(最終)公開講座は「簿記の基本と税制の問題点」

第6回と前回(第5回「消費税と税制」)の公開講座を終えて税制や消費税の実態、税収全体の額=収納済額の認識や還付金など不公正な税収構造の歪み=問題点の理解の大切さを痛感。しかし、来年に迫る10%増税実施と参議院選挙を前にして税制の理解と税制論議が進まず、種々の運動のテーマにもならない。簿記や貸借対照表の基礎理解を求める声もあり、次回最終の公開講座(11月10日(土)午後6時～ココネリ)のテーマは「簿記の基本と税制の問題点」とし、広く公開講座の参加を呼びかけます。

(眞嶋康雄・記)